Research 調査

消費動向調査

「(山形・秋田)県内家計の消費動向調査」(概要)

① 調査の目的 山形・秋田の県民の暮らし向きについての現状と見通しを時系列的にとらえるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

② 調査の方法 専属モニターを対象とした郵送によるアンケート調査

③ 調査の対象者 山形・秋田の県内に在住するサラリーマン(勤労者)世帯(世帯人数２名以上)

④ 調 査 期 間 平成29年6月１日(木)～14日(水)

山形／モニター世帯数：497世帯
有効回答数：470世帯 (回答率：94.6%)
秋田／モニター世帯数：371世帯
有効回答数：340世帯 (回答率：91.6%)

▶消 費 指 数

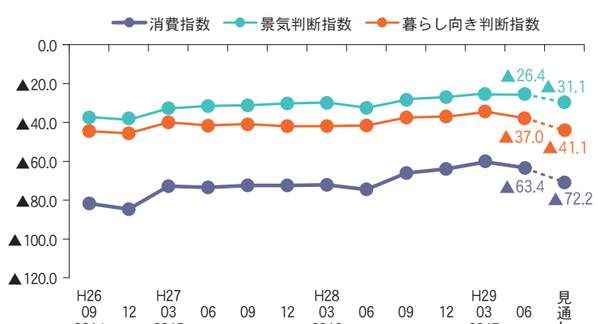
第44回　山形県内家計の消費動向調査

～消費マインドは足踏み状態。依然として先行きに不安感～

消費指数は▲63.4（前期比2.5ポイント下落）と、４期ぶりに若干悪化となった。内訳は景気判断指数が▲26.4（前期比±0.0）と横ばい、暮らし向き判断指数が▲37.0（前期比2.5ポイント下落）と若干悪化した。

今後の見通しは、消費指数が▲72.2（今回調査比8.8ポイント下落）と大幅に悪化の見込みとなっている。内訳は景気判断指数が▲31.1（今回調査比4.7ポイント下落）、暮らし向き判断指数が▲41.1（今回調査比4.1ポイント下落）と、いずれも悪化の見通しとなっている。

図１　山形　消費指数の推移



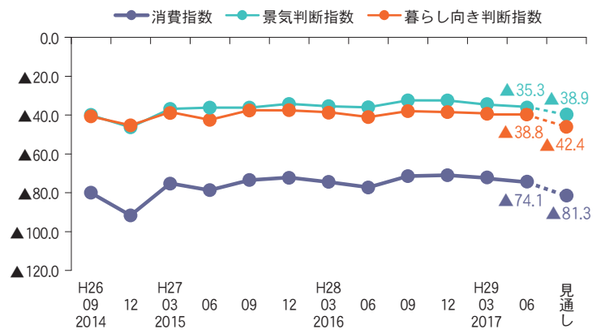
第24回　秋田県内家計の消費動向調査

～消費マインドは２期連続で悪化。当面はさらに慎重化する見通し～

消費指数は▲74.1（前期比1.5ポイント下落）と２期連続で悪化した。内訳をみると、景気判断指数が▲35.3（前期比1.5ポイント下落）と2期連続の悪化、暮らし向き判断指数は▲38.8（前期比±0.0ポイント）と横ばいとなった。景気が依然として先行き不透明な状況にあるなか、物価の上昇に対する負担感は高まっており、消費マインドには悪化感がうかがえる。

今後の見通しは、消費指数が▲81.3と悪化の見込み。内訳は、景気判断指数が▲38.9、暮らし向き判断指数は▲42.4とともに悪化の見込みとなっている。

図２　秋田　消費指数の推移



【指数の見方】
消費指数は景気判断指数（景気・雇用環境・物価の３項目で構成）と暮らし向き判断指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの４項目で構成）の合計からなり、値は200～▲200の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

▶景気と暮らし向き

景気判断

山形の景気判断指数は▲26.4（前期比±0.0）と横ばいとなった。景気判断指数を形成する３つの指数については、「景気（県内）」はほぼ横ばい、「雇用環境」が回復したものの、「物価（日用品）」が悪化となった

秋田の景気判断指数は▲35.3（前期比1.5ポイント下落）と２期連続で悪化した。指数を形成する個別指数では、「雇用環境」が２期ぶりに上昇した一方、「景気（県内）」は小幅ながら２期連続で悪化、「物価（日用品）」は２期ぶりに悪化した。

図３　山形　景気判断指数（内訳）の推移

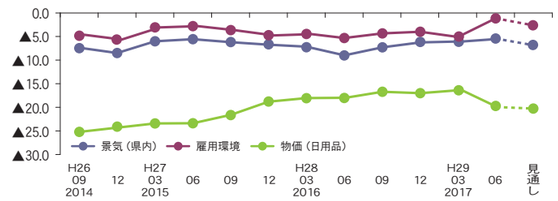
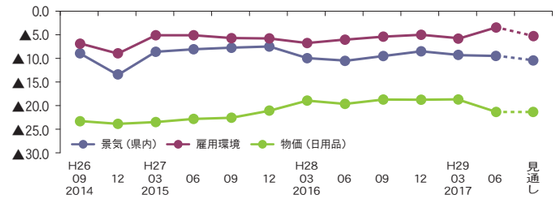


図４　秋田　景気判断指数（内訳）の推移



暮らし向き判断

山形の暮らし向き判断指数は▲37.0（前期比2.5ポイント下落）と若干悪化した。暮らし向き判断指数を形成する４つの指数については、「世帯収入」は横ばい、「保有資産」「お金の使い方」「暮らしのゆとり」で若干悪化した。

秋田の暮らし向き判断指数は▲38.8（前期比±0.0ポイント）と横ばいで推移した。指数を形成する個別指数は、「世帯収入」と「お金の使い方」が小幅ながら上昇した一方、「暮らしのゆとり」は４期ぶりに悪化した。また、「保有資産」は横ばいとなった。

図５　山形　暮らし向き判断指数（内訳）の推移

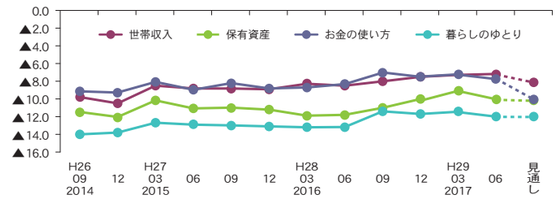
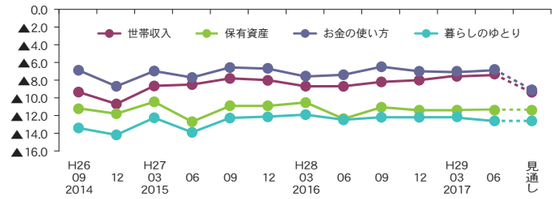


図６　秋田　暮らし向き判断指数（内訳）の推移



家計収支

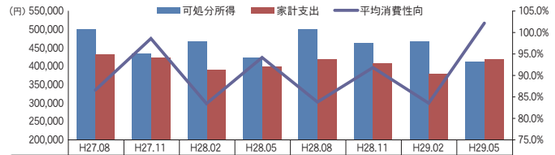
山形の収入面では可処分所得（収入の手取り額）が415千円と前年同期比で９千円の減少となり、支出面では支出合計が422千円と前年同期比で21千円の増加となった。

この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は101.5%となり、前年同期に比べて7.3 ポイントの上昇となった。

秋田の収入面では可処分所得（収入の手取り額）が421千円と前年同期比で36千円の増加となり、支出面では支出合計が425千円と前年同期比で37千円の増加となった。

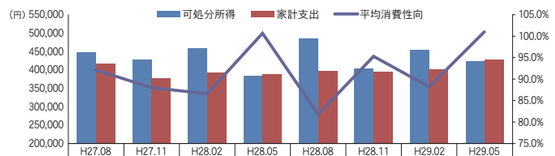
この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は100.9%となり、前年同期に比べて0.2 ポイントの低下となった。

図７　山形　家計収支と平均消費性向の推移



	H27.08	H27.11	H28.02	H28.05	H28.08	H28.11	H29.02	H29.05
可処分所得	502,042	422,214	468,773	424,673	500,543	452,503	453,724	415,375
家計支出	434,679	408,581	390,879	400,118	419,578	416,695	379,920	421,501
平均消費性向	86.6%	96.8%	83.4%	94.2%	83.8%	92.1%	83.7%	101.5%

図８　秋田　家計収支と平均消費性向の推移



	H27.08	H27.11	H28.02	H28.05	H28.08	H28.11	H29.02	H29.05
可処分所得	453,091	429,116	450,885	385,386	485,765	408,300	455,837	420,910
家計支出	417,186	377,521	390,408	388,065	397,449	390,267	399,003	424,799
平均消費性向	92.1%	88.0%	86.6%	100.7%	81.8%	95.6%	87.5%	100.9%